

第 12 回全国大会 専門部会による企画(概要)

大阪国際大学 守口キャンパス

8月23日(火) 13:00~14:30

※詳細は、決まり次第、随時お知らせいたします。

理数系部会 ※第1会場(1-411)

数学・物理のアクティブラーニング
数学や理科はアクティブラーニングになじみにくいといわれる。 そこで、今回数学・物理学のアクティブラーニングの実践報告を基に数学・物理学アクティブラーニングの理論的紹介を行い、議論をしたい。

日本語部会<ラウンドテーブル> ※第2会場(1-412)

日本語教育における高大連携の可能性
高校までの国語教育とは異なり、大学での日本語教育は新しい発想で、発達段階に応じた論理力、思考力を養成する必要がある。しかし、高校までの教育の結果として大学での学びがあることから、それまでの学びと大学での学びを連携させることで、高校生の日本語に対する学習意欲を高め、大学での専門学習への動機づけを早めることが可能になるのではないかと。このような視点から、「考えること」を中心に具体的な方法を提案する。

英語部会(1)<ラウンドテーブル> ※第5会場(1-415)

英語授業分析の手法と展開 1
授業実践を日々発展させるには授業改善が不可欠である。授業改善のよりどころとなるのは授業を通じて得られたデータによるところが大きい。しかしデータを分析するには専門的な知識やスキルが必要となる。しかもデータに応じて適切な分析手法を選択しなければならない。 企画では学生の記述や質問紙調査等数値として得たデータを質的・量的に分析するさまざまな手法について学ぶ。実践を通じたデータを事前に共有・分析し授業改善にどのように役立てるのかについて、交流したい。

8月23日(火) 14:50~16:20

※詳細は、決まり次第、随時お知らせいたします。

学習言語部会 ※第1会場(1-411)

高大連携のための教員養成
中等教育の上に積み重ねた高等教育が成り立つ。が、大学がユニバーサル化した今日、大学での教育が、短期間での成果主義にならざるを得ない状況にある。 中等教育で受けた教育観・学習観の上に、大学で教育を実践している本学会の教員にとっては、どのような教育が必要なのか大きなテーマである。 加えてインダストリー4.0の生み出す社会で必要に教育はどのようなものか、人類始まって以来の課題を突き付けられている。 そこで、本企画は、大学での教育が、過去積み重ねられてきた教育観の上に成り立っている一方、中等教育の現場では来るべき未来に必要な教育が求められている。教員養成は自らが受けていない教育を実践できる教員の育成が必要となっていると言わざるを得ない。

英語部会(2) <ラウンドテーブル> ※第5会場(1-415)

英語授業分析の手法と展開 2
授業実践を日々発展させるには授業改善が不可欠である。授業改善のよりどころとなるのは授業を通じて得られたデータによるところが大きい。しかしデータを分析するには専門的な知識やスキルが必要となる。しかもデータに応じて適切な分析手法を選択しなければならない。 企画では学生の記述や質問紙調査等数値として得たデータを質的・量的に分析するさまざまな手法について学ぶ。実践を通じたデータを事前に共有・分析し授業改善にどのように役立てるのかについて、交流したい。

第 12 回全国大会 編集委員会等による企画(概要)

2016/7/29 (追記)

8月23日(火) 16:40～17:10

※詳細は、決まり次第、随時お知らせいたします。

編集委員会&大会プログラム委員会 ※第5会場(1-415)

記事投稿・査読システムの稼働について&予稿の書き方

編集委員会からは、今年度中に導入が予定されている「記事投稿・査読システム」の稼働にあたり、その注意点等をお話しします。

大会プログラム委員会からは、予稿の書き方についてお話しします。予稿の投稿について、書式等が決まっているにも関わらず、多くの投稿原稿において、決まりを守らず、日頃、書き慣れた書式で書かれたと思われる箇所が見られます。予稿作成時に注意していただきたい点についてお話しします。

以上